

平成25年度

青森市自動車運送事業
事業計画書



青森市企業局
交通部

目 次

P 1	事業運営基本方針
P 4	事務事業
P 14	平成25年度収支見込総括表

事業運営基本方針

事業運営基本方針

市営バスの現状と課題

青森市のバス事業は、大正15年の創業以来、これまで87年の長きにわたり、地域社会及び市民の足として、市勢発展の一翼を担いながら事業を継続してきた。

しかしながら、昭和30年代後半から現在に至るまで、マイカーの普及や移動手段の多様化、都市構造の変化、少子高齢化、地域人口の減少などにより、市営バスの経営状況は、悪化の一途をたどっている。このため、昭和41年度から平成6年度まで、国主導による3次に亘る事務の効率化や支出経費削減等財政の健全化に取り組み、さらに平成13年度からの経営健全化計画、また平成18年度からの市営バス再構築プランにより、路線・運行規模の縮小を前提として、退職者不補充、嘱託職員制度の導入、運行路線の一部民間委託、各種手当の削減、新規車両購入の凍結、整備工場などの民間委託化推進など、徹底した効率化対策に取り組む一方で、市から「不採算路線及び退職給与金」の財政支援を得ながらその経営に当たってきたところである。

一方、公共交通としての使命を果たすうえで、持続可能なバス運行体系の確保のためには、抜本的な対策が必要となっており、これを踏まえ、市では平成21年10月に「青森市総合都市交通戦略」を策定したが、交通部は、その重点戦略である「バス交通に関する戦略」の進捗に合わせ、さらなる効率化を図りながら、引き続き経営改善を実施していくこととし、平成24年2月に『「青森市総合都市交通戦略」実施に伴う青森市自動車運送事業経営改善計画』（以下「経営改善計画」という。）を策定し、公表したところである。

利用状況については、平成23年度においては、前年度の12月4日のダイヤ改正から間がないことから、例年4月に実施しているダイヤ改正は行わず、48路線を平日1日当たり165ダイヤ、1,036便で運行したが、年度当初、3月11日に発生した東日本大震災の影響が続き、利用者数が落ち込み、その後徐々に回復したものの、前年度並みの回復には至らず、さらには、本来利用者が増加する降雪期においても、近年にない大雪の影響から市民の外出頻度が下がったと考えられ、例年ほどには冬期間の伸びが見られず、結果として対前年比約1.4%減の8,491,110人となった。

平成24年度においては、4月1日のダイヤ改正において、47路線を平日1日当たり165ダイヤ、1,035便の運行とし、さらに、「バス交通に関する戦略」に基づき実施された孫内、岡町、矢田、滝沢地区における公共交通社会実験に合わせ、同地区を運行する路線の運行休止を主な内容とするダイヤ改正を10月1日に行い、43路線を平日1日当たり159ダイヤ、1,003便で運行し、現時点における平成24年度の利用者数は約8,449千人と、平成23年度を若干下回る見込みであり、依然として厳しい経営環境が続いている。

今後の方向性 ～「青森市総合都市交通戦略」～

「青森市総合都市交通戦略」の重点戦略である「バス交通に関する戦略」ではその基本方針として、現在のバス利用圏域を維持した上で、「乗りやすい、わかりやすい、遅延が少なく、定時性に優れるバス交通ネットワーク」を構築し、市民の生活交通を確保し持続可能なバス交通としていくこととしており、現行の路線を「骨格線」、「幹線」、「支線(フィーダー)」の3区分に区分し、再編することとしている。

将来的な市営バスの方向性としては、段階的に、現行路線のうち、「骨格」「幹線」のみの運行へと事業規模を縮小していくこととしており、併行して、「支線」に該当する路線については市へ移管していくとともに、路線の整理統合を行い、平成31年4月を目標に利便性を維持しながら効率的なダイヤ編成を行っていくこととしている。

平成24年度は、孫内、岡町、矢田、滝沢地区の各地区において、市が民間事業者へ委託しての公共交通社会実験運行を10月1日より実施しているが、平成25年4月からは本格運行を実施しており、交通部ではそれに合わせ、対象路線を廃止したところである。

また、市は新たな支線化対象地区として、平成24年度から浪岡、高田、入内、大柳辺、青柳地区の各地区において公共交通再編調査や住民懇話会を実施しており、平成25年10月からの公共交通社会実験運行の実施に向けた取り組みを進めている。

交通部では、平成25年度以降のダイヤ改正時期については、この公共交通社会実験の実施に合わせたダイヤの組換えが大規模なものとなることや、市営バスと社会実験バスとの運行時刻等の相互連携や調整の必要性が大きいことから、例年どおりの4月改正ではなく、10月1日からの公共交通社会実験の実施に合わせたダイヤ改正を実施することとしている。

更には、維持管理経費を抑制するため、老朽化が進み、バスカードの読み取り不良などの不具合が発生していた運賃箱について、経営改善計画の完了時点における車両予定数である101台分を平成24年度に更新したことに加え、平成25年度は、中型のバス車両5台を新たに購入する予定であり、今後も「経営改善計画」及び「バス交通に関する戦略」の進捗に合わせ、計画的に対応していくこととしている。

一方、今後の路線再編による骨格・幹線と支線間の乗継や路線の整理統合による運行便数の縮小など、大幅な変革による様々な影響も懸念されるところであり、利用者サービスを確保する手段として、利用者への確かな運行状況の情報提供が可能となるバスロケーションシステムや、スムーズな料金支払いが可能となり、利用者のバスへの乗降時間の短縮にも効果的なICカードシステムの導入の検討も将来的に必要となることが見込まれるが、交通部単独では経営が困難であることに加え、その機能を十分に発揮させるためには、全市的な視点での検討が今後必要になると思われる。

今後においては、これらのバス関連機能を含め、「バス交通に関する戦略」の着実な推進を図り、引き続き利便性の向上と経営状況の改善を目指していく。

【参考1：骨格線・幹線 例】

番号	主要経路 又は経由地域	方面	番号	主要経路 又は経由地域	方面
1	国道4号、7号	東西営業所間	7	西滝・石江	三内丸山
2	国道103号線	青森公立大学	8	旭町通り	大野・金沢
3	国道103号線、 松原通り	横内・幸畑	9	大野地区・荒川通り	荒川
4	国道280号線	野木和団地	10	国道4号、7号、 103号、旭町通り	浜田
5	西滝・三内沢部	つくしが丘病院	11	国道4号、明の星通り	戸山
6	浪館通り	安田	12	国道4号、造道、桜川	小柳

支線との乗り継ぎポイントまでの経路又は乗り継ぎポイントが同一の路線を、整理統合する。

【参考2：支線化スケジュール】

年度	路線名
平成25年度（5路線）	孫内線、岡町線、矢田線、滝沢線、矢田・滝沢線
平成26年度（8路線）	浪岡線（大釈迦経由）、浪岡線（空港経由）、青い森病院線、入内線、大柳辺線、高田線、青柳線、八甲田丸線
平成27年度（5路線）	奥内・後潟線、西バイパス線、桑原線、築木館線、野木・大別内線
平成28年度（5路線）	つくしが丘病院・岩渡線、田茂木野線、月見野霊園線、東バイパス線、小柳団地線
平成29年度（3路線）	浪館・中央循環線、荒川線、南部工業団地線
平成30年度（3路線）	サンドーム線、土木事務所線、国道線

高田線（平成26年）、つくしが丘病院・岩渡線（平成28年）、国道線（平成30年）は、骨格・幹線路線（案）であるが、その一部について、支線化や起終点の変更を検討する路線

【参考3：市営バス事業規模 平成24年度と平成25年度以降の路線再編後の比較（見込み）】

（単位：ダイヤ、人）

	平成24年度	平成25年度	平成31年度	平成24年度対比
路線数	47	43	12	35
ダイヤ数	165	159	96	69
運行便数	1,035	1,003	577	458
必要運転士数	202	197	131	71

「支線」の運行内容、運行開始時期等により数値は変動する。

平成24年度は、平成24年4月1日時点の数値である。

事 務 事 業

平成 25 年度 事務事業

1 効率化対策

近年は、人口減少、少子高齢化の進行や移動手段の多様化などにより、バス利用者数が減少しており、さらに厳しい経営状況にあることから、引き続き事業運営の効率化対策に意を用い、原則として退職者不補充とし、嘱託運転士制度や再任用職員等の活用により一層の人件費削減に取り組むなど、可能な限り経常費用の削減を図る。

職員数

職員の増減等

正職員については平成 24 年度の期首人員 165 人より 10 人減員の 155 人とする。内容は、乗務員が期首より 10 人減員の 108 人、事務職員は 45 人、整備士は 2 人とする。

再任用職員は平成 24 年度に退職した職員のうち 7 人が再任用となるため、営業所事務、乗務員を合わせて 31 人である。また、嘱託乗務員等は、65 歳を迎えた者等の退職により、8 人減となるが、補充は行わず 51 人とする。

職員計画（管理者を除く）

（単位：人）

区分	平成 24 年度			H25.3.31 退職者	H25.4.1 増減	平成 25 年度 期首
	期首	中途退職	期末			
乗務員	118	2	116	8	0	108
事務職員	45	0	45	0	0	45
整備士	2	0	2	0	0	2
正職員計	165	2	163	8	0	155
再任用職員	25	0	25	1	7	31
嘱託乗務員等	59	3	56	5	0	51
職員総計	249	5	244	14	7	237

職員の推移

（単位：人）

	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
乗務員	168	154	144	132	118	108
事務職員	38	40	43	45	45	45
整備士	2	2	2	2	2	2
正職員計	208	196	189	179	165	155
再任用職員	13	17	21	23	25	31
嘱託乗務員等	46	43	35	49	59	51
職員総計	267	256	245	251	249	237

平成 25 年度については、平成 25 年度当初予算ベースの計画値である。

人件費の推移

(単位：千円)

区 分	平成 24 年度 (当初)			平成 25 年度 (当初)			増 減
	基本給	その他	計	基本給	その他	計	
乗 務 員	431,802	298,185	729,987	399,089	288,644	687,733	42,254
事 務 職 員	171,193	102,797	273,990	176,019	109,181	285,200	11,210
整 備 士	7,938	4,210	12,148	8,188	4,803	12,991	843
正職員計	610,933	405,192	1,016,125	583,296	402,628	985,924	30,201
再 任 用 職 員	66,051	17,824	83,875	60,390	15,652	76,042	7,833
嘱託乗務員等	98,184	65,028	163,212	105,269	71,517	176,786	13,574
職員総計	775,168	488,044	1,263,212	748,955	489,797	1,238,752	24,460

平成 24・25 年度 (当初) は、当初予算ベースの計画値である。

財 務

経常経費の効率化

事業規模の縮小に伴うダイヤ数・便数の減少と職員数の減少を連動させることにより効率的な人員配置を行い、人件費の削減を図ることに加え、民間への業務委託等により経常費用を抑制し、維持管理経費の抑制に努める。

車両計画

平成 24 年度は老朽化の著しい車両を 10 両廃車とし、小型車両を 6 両売却し、16 両減の 158 両となった。平成 25 年度は 2 両を廃車し、新車 5 両を購入する予定である。平成 26 年度以降は、交通戦略の進捗状況に合わせ、必要車両台数の調整を図っていく。

車両計画 (見込)

(単位：両)

区分	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
期首	162	174	158
期末	174	158	161
増減	12	16	3

2 安定した料金収入の確保

「青森市総合都市交通戦略」(バス交通に関する戦略)に基づく路線再編に伴い、支線(フィーダー)以外の路線については、事業規模の適正化のための効率的なダイヤ編成に努めるとともに、例年どおりの 4 月ではなく、毎年 10 月 1 日から実施予定の公共交通社会実験運行の実施に合わせたダイヤ改正を行い、利用者の利便性を可能な限り考慮した運行時刻、便数とすることにより、利用者数、料金収入の確保に努める。

また、臨時的な需要に対する臨時ダイヤでの対応や運行業務の管理委託、さらには高齢者人口の増加に伴うバス利用の促進、バスカードや定期券の P R、バス広告の増収に向けた広告代理店との連携強化など、営業活動をさらに強化する。

事業規模の適正化

ダイヤ数

年度当初は、平成24年度10月改正ダイヤで運行することとする。

平成25年度ダイヤ改正は、平成25年度の公共交通社会実験運行の実施に合わせた10月を予定している。

(単位：km、人)

区 分	平成24年度決算見込	平成25年度当初予算	増 減
ダイヤ数	159	159(145)	0(14)
走行キロ数	4,833,626	4,531,499	302,127
輸送人員	8,448,861	8,149,729	299,132

1 平成25年度の()内は公共交通社会実験後

年末・年始ダイヤの検証

平成24年度において、通常の休日以上に利用者が減少する年末・年始の利用状況に合わせた効率的な運行ダイヤの実施について検討した結果、利用者の動向を踏まえ、当面は実施を見送ることとしたが、引き続き年末・年始における利用状況を確認しながら、検証していく。

路線収入の確保と効率的な運行を目指す取り組み

サービス水準の維持と経営効率の改善

「青森市総合都市交通戦略」(バス交通に関する戦略)による路線再編を実施するとともに、利便性の確保・向上を可能な限り図ることを目的としたサービスの提供を行う。

また、引き続き、各運行便の利用状況の把握に努め、路線ごとの特徴と運行時間帯を見定め、より利用しやすい運行時間帯や運行経路の構築に努める。

なお、ねぶた祭、盆など行事、祭事等に伴う臨時的な需要増に対しては、臨時ダイヤにより柔軟に対応する。

運行業務の民間委託

直営で賄いきれないダイヤ(14ダイヤ)について、引き続き民間事業者への運行管理委託を継続する。

なお、運行管理委託については、「青森市総合都市交通戦略」(バス交通に関する戦略)の進捗に合わせ、平成26年度の公共交通社会実験実施を目途に、段階的に縮小し廃止する予定である。

積雪期の対応

恒常的に運行の大幅な遅延が発生する積雪期においては、円滑なバス運行に向け、降雪時期前に、関係機関、関係部局へ、バス路線に係る除雪について特段の配慮を依頼するほか、バス運行に支障が生じた場合などには適宜連絡し、緊急的な除排雪の依頼を行う。また、降雪を勘案した道路環境の改善についても、今後とも関係機関に対して働きかけていくほか、バス停周辺の歩行者空間の安全確保にも積極的に関係機関と連携し取り組んでいく。

営業活動の強化

ホームページを活用した情報提供に努めながら、小児無料化による家族利用の普及や高齢者人口の増加に伴うバス利用の促進、更には各種バスカードや定期券のPRなど、バス利用者の新たな獲得に向けた活動を展開するほか、広告代理店との連携強化によるバス広告の増収を図る。

一般乗合

バス利用を促すため、主要バス停留所やバス車内への主要路線図の掲示、ポケット時刻表の配布、ホームページの活用、バスの日イベントへの協力をはじめとしたバスのキャンペーン活動を行うほか、特に、高齢者へは一定期間乗り放題の「フリーパス券」の積極的なPR活動を展開し、普及と増収に努める。

バス広告の受注拡大

景気低迷等により、広告の受注が厳しい状況の中、一般乗合路線バスの広告媒体としての優位性と価値観を高めながら、現スポンサーの継続を図るとともに、広告代理店との連携強化による新規スポンサーの獲得に努める。

- ・バスボディ広告取り扱いについて、代理店扱いへの一元化
- ・バスカードへの代理店を通じた広告受注
- ・ホームページを活用した情報提供
- ・バスカード広告の促進

東北新幹線新青森駅発着便への積極的対応

観光客など来街者に快適な利用環境を提供するため、停留所サイン・時刻表等の改善を図るなど、その整備に努める。

また、観光関係者等との連携により、県外ビジネス客や観光客を対象とした新たなサービスを検討する。

3 安全・安心・サービスの向上**運輸安全マネジメント****輸送の安全の確保に関する基本的な方針**

輸送の安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、交通部職員が一丸となって事故防止に努めるとともに、常に安全を最優先として取り組んでいく。

安全方針

私たちは、安全な運行の確保に努め、お客様が快適に、安心して乗車していただける市営バスをめざします。

事故や車両故障等の要因を省みて、絶えず緊張感を持って必要な改善に努めます。

決められたルールを深く認識し、法令を遵守します。

安全な車両や設備などの提供に努めます。

職員の資質向上に向けた取り組み

市営バスを利用される方の「安全」「安心」「快適」を第一に掲げ「輸送の安全に関する基本方針」に基づき、「市民の足」として信頼される公共交通の役割を果たすため事故防止及び接遇の強化を図り職員の資質向上に努める。

職員の資質向上

利用者に気持ち良くバスを利用していただくための基本は、快適な乗り心地と親切な対応にあることを認識し、「輸送の安全に関する基本方針」に基づき、事故防止対策及び交通規則の順守並びに酒気帯び出勤の撲滅など対話集会等における教育を徹底させ、全職員を挙げて市民に信頼される市営バスに努める。

事故防止対策

輸送の安全に関する計画、教育及び研修に基づき「安全最優先の原則」「関係法令の遵守」の周知を図り安全運行の意識向上に努める。

また、運行管理者における確実な指示・伝達により事故防止を図るほか、災害時等における情報の連絡体制を確立し、伝達の円滑化及び共有化を図り安全運行に努める。

市営バスモニターの実施

日常バスを利用している市民からの、率直な意見を収集し、運行内容、接遇などの利便性向上、乗務員の意識向上に資することを目的に平成24年度から実施した市営バスモニターを、今年度も継続して実施する。

情報提供

積極的にバス利用者への運行情報の提供に努める。

停留所通過予定時刻表の改善

停留所に掲載してある通過時刻表について、文字をできるだけ大きくするなどの改善を行い、わかりやすい表示について工夫に努める。

時刻表の利便性向上

ポケット時刻表は、携帯用としての機能性を確保しながら、バス利用者に配慮したわかりやすく見やすい時刻表となるよう努める。

運行情報の提供

停留所毎の通過予定時刻表の青森市営バスホームページや携帯電話での閲覧検索、各停留所通過予定時刻のFAXサービスのPRに努める。

その他

天災等による運行経路の変更など、早急に広く市民へ周知する必要がある時は、公式ツイッターやホームページ等により交通部独自で周知することはもとより、広報広聴課を通じて、報道機関、各関係団体等への迅速な情報発信に努める。

災害対応、危機管理対策

地震や津波といった天災、バスジャックや重大な事故といった人災発生時、乗客の安全の確保や運行経路の確保を目的とした対応手順書を作成し、その訓練を行うとともに、外部で実施する様々な対策訓練にも積極的に参加する。

また、待合所としても利用される東西両営業所については、消防訓練を防火管理者指

導の下に実施する。

なお、津波対策といった全庁的に対応すべき事案については、その進捗に合わせ、手順書の更新等を行う。

車内環境

車内案内（ピンマイクの使用等）及び良質な車内環境の提供を図る。

車内案内サービス

車内案内については、明るくさわやかな挨拶を基本としながら、お客様の立場に立った真心を込めた対応や、分かりやすい言葉遣いに努める。

車内整理

バス利用者に良好な乗車環境を提供するため、車内清掃（掲示物の整頓）に努める。また、車両の点検を日常的に行い、安全性の確保に努める。

運行体系の再構築

「青森市総合都市交通戦略」（バス交通に関する戦略）の具現化に向けた取り組みを図るとともに、利用者の動向やニーズを的確に把握し、実態に則した運行路線体系となるよう、関係各部局と連携し取り組んでいく。

4 その他の施策

財政負担の確保

一般会計繰入金等

平成24年度の決算見込みは、経営改善計画を基に関係部局と協議した結果による繰入措置の補正により、不良債務は減少が図られ約3億4,498万円の見込みとなり、資金不足比率については、当該計画における目標値として設定した17.3%（税込み）を達成する見込みとなっている。

しかし、赤字額については燃料価格等の変動の影響を受けたことなどにより、約2億2,641万円と見込み、それにより累積欠損金は約14億2,085万円と見込んだものである。

平成25年度予算においては、引き続き経営改善計画に基づき、さらなる経営改善を図りながら、収益的収支上では赤字予算ながらも、平成24年度と同様に長期借入金の返還を盛り込むなど、全体的な借入体質の改善に努めるとともに、不良債務の減少を見込んだものである。

(単位：千円)

繰入区分	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度 予定	平成 25 年度 予定
不採算分	341,029	302,339	354,342	375,186	353,587	382,498
繰延償却分	0	199,395	148,628	129,435	94,403	40,270
共済等分	126,351	87,420	100,939	96,671	85,697	91,197
退職金分	-	146,340	311,672	251,311	168,710	89,559
浪岡線バス購入分	46,454	46,455	0	0	0	0
車両更新分	0	0	0	1,076	58,642	121,339
小 計	513,834	781,949	915,581	853,679	761,039	724,863
長期借入金	650,000	0	0	0	0	0

H20 共済等分繰入：燃料高騰対策等繰入含む。H23 共済等分繰入：東日本大震災経費分含む。

H25 共済等分繰入：H26 年度からの新会計基準に対応するためのシステム導入経費含む。

長期借入金返還	0	0	64,200	64,200	64,200	64,200
---------	---	---	--------	--------	--------	--------

福祉負担

高齢者・障害者・小学生以下の方々を対象とした本市各福祉制度において、その利用状況の把握に努め、実態に見合った応分の負担を確保する。

(単位：千円)

区分	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度 予定	平成 25 年度 予定
高齢者	490,552	477,575	457,588	485,537	508,186	483,162
障害者	223,738	223,738	224,010	223,612	214,069	207,659
小学生以下	18,565	14,696	13,919	11,921	14,214	13,788
今別町 (高齢者・障害者)	317	317	317	317	317	317
合 計	733,172	716,326	695,834	721,387	736,786	704,926

各年度の額は精算後。

環境対策

ノーカーデー活動の積極的推進

市が主体となって行っている自家用車の使用を自粛し市営バスなどの公共交通機関を利用する「ノーカーデー活動」に積極的に取り組み、市の環境施策の推進とともにバス利用の啓発に努める。

アイドリングストップの励行

環境対策と費用抑制を図るため、運行に配慮しながら最大限その励行に努める。

料金体系の見直し検討

現在、市当局と連携し進めている「青森市総合都市交通戦略」(バス交通に関する戦略)において、市営バスが将来的に担うべき骨格・幹線路線におけるわかりやすい料金体系が求められていること、また、市が実施主体となるフィーダー路線との乗り継ぎが

想定されていることから、乗り継ぎ割引など新たな料金制度の検討を行うとともに、将来想定される全市的なＩＣカード導入に備え、関連情報の収集を行う。

5 業務量（見込）

平成25年度のダイヤ計画等の全体的な概要は以下のとおりとする。

ダイヤ計画

平日ダイヤ（期首比）

（単位：ダイヤ）

区 分		早出	遅出	中休	合計
東 部	平成24年度	51	26	21	98
	平成25年度	49	26	19	94
	比較	2	0	2	4
西 部	平成24年度	32	19	16	67
	平成25年度	31	19	15	65
	比較	1	0	1	2
合 計	平成24年度	83	45	37	165
	平成25年度	80	45	34	159
	比較	3	0	3	6

土・日・祝日ダイヤ（期首比）

（単位：ダイヤ）

区 分		早出	遅出	中休	合計
東 部	平成24年度	39	21	21	81
	平成25年度	36	21	20	77
	比較	3	0	1	4
西 部	平成24年度	26	17	15	58
	平成25年度	26	16	14	56
	比較	0	1	1	2
合 計	平成24年度	65	38	36	139
	平成25年度	62	37	34	133
	比較	3	1	2	6

上記ダイヤ数には、委託ダイヤを含む。

委託分（平日、土曜日・日曜日・祝日とも）

（単位：ダイヤ）

区 分		早出	遅出	中休	計
東 部	平成24年度	11	3	2	16
	平成25年度	10	2	2	14
	比較	1	1	0	2

乗務員計画

乗務員の増減（期首比）

（単位：人）

	平成 24 年度		平成 25 年度			
	職員数	退職者	採用	職変	現員	
正職員運転士	118	10	0	0	108	
再任用運転士	23	1	7	0	29	
臨時職員	一般嘱託運転士	54	3	0	0	51
	再雇用運転士	5	5	0	0	0
	計	59	8	0	0	51
合計	200	19	7	0	188	

営業所別乗務員数

（単位：人）

	東部営業所	西部営業所
正職員運転士	60	48
再任用運転士	18	11
一般嘱託運転士	24	27
合計	102	86

営業所別充足率（運行管理業務委託ダイヤ(東部 14 ダイヤ)を除く）

（単位：ダイヤ、人）

区 分	東部営業所	西部営業所	合計
ダイヤ数	80	65	145
一日必要人員	109	88	197
平成 25 年 4 月 1 日在籍職員	102	86	188
充足率(%)	93.6	97.7	95.4

一日必要人員は年休取得等を考慮して計算している。

車両計画（見込）

車両数の増減

（単位：両）

区 分	平成 24 年度				平成 25 年度			
	大型	中型	小型	計	大型	中型	小型	計
期首車両数	129	32	13	174	127	24	7	158
廃車台数	2	8	0	10	1	1	0	2
売却台数	0	0	6	6	0	0	0	0
購入台数	0	0	0	0	0	5	0	5
期末車両数	127	24	7	158	126	28	7	161

営業所別車両数

（単位：両）

	東部営業所				西部営業所			
	大型	中型	小型	計	大型	中型	小型	計
車両数	77	9	7	93	50	15	0	65

車両数は期首

平成 2 5 年度 収支見込総括表

平成25年度 青森市自動車運送事業会計 収支見込総括表(税込み)

(単位:千円、%)

		収 益					費 用								
		科 目	H24決算見込	H25当初予算	増減額	増減率	科 目	H24決算見込	H25当初予算	増減額	増減率				
収 益	営 業 収 益	運 送 収 益	乗 合	2,187,144	2,216,351	29,207	1.3	営 業 費 用	職 員 給 与 費	基 本 給	648,532	643,686	4,846	0.7	
											退 職 手 当	168,710	89,559	79,151	46.9
			計	2,187,144	2,216,351	29,207	1.3				そ の 他	876,175	866,403	9,772	1.1
		運 送 雑 収 益	広 告 料	23,955	25,682	1,727	7.2			計	1,693,417	1,599,648	93,769	5.5	
			雑 収 益	371	479	108	29.1			経 費	動 力・燃 料・油 脂	242,380	227,332	15,048	6.2
											部 品・材 料・外 注	132,272	132,427	155	0.1
		計	24,326	26,161	1,835	7.5			そ の 他		432,316	358,327	73,989	17.1	
		小 計	2,211,470	2,242,512	31,042	1.4			計	806,968	718,086	88,882	11.0		
		営 業 外 収 益	他 会 計 補 助 金	350,580	220,874	129,706	37.0			減 価 償 却 費	188,359	256,674	68,315	36.3	
			補 助 金	0	0	0	-			小 計	2,688,744	2,574,408	114,336	4.3	
	そ の 他		16,357	3,261	13,096	80.1	営 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	5,442	6,845	1,403	25.8			
									繰 延 勘 定 償 却	94,403	40,270	54,133	57.3		
	小 計		366,937	224,135	142,802	38.9			そ の 他	16,231	26,522	10,291	63.4		
	経 常 収 益 計	2,578,407	2,466,647	111,760	4.3			小 計	116,076	73,637	42,439	36.6			
	経 常 収 支	226,413	181,398	45,015	19.9			経 常 費 用 計	2,804,820	2,648,045	156,775	5.6			
特 別 利 益	固 定 資 産 売 却 益	1	0	1	皆減	特 別 損 失	過 年 度 損 益 修 正 損	0	0	0	-				
	小 計	1	0	1	皆減										
事 業 収 益 合 計		2,578,408	2,466,647	111,761	4.3	事 業 費 用 合 計		2,804,820	2,648,045	156,775	5.6				
純 損 益		226,412	181,398	45,014	19.9										
累 積 欠 損 金		1,420,855	1,602,253	181,398	12.8										
資 本 的 収 支	収 入	企 業 債	347,500	98,100	249,400	71.8	支 出	建 設 改 良 費	359,611	108,539	251,072	69.8			
		国 (県) 補 助 金	2,858	2,858	0	0.0		企 業 債 償 還 金	64,388	115,991	51,603	80.1			
		固 定 資 産 売 却 代 金	8,772	0	8,772	皆減		退 職 手 当 償 還 金	0	0	0	-			
		他 会 計 補 助 金	56,872	121,491	64,619	113.6		他 会 計 長 期 借 入 金 返 還 金	64,200	64,200	0	0.0			
		投 資	477	87	390	81.8		退 職 給 与 費	0	0	0	-			
		負 担 金	535	200	335	62.6		投 資	16	236	220	1,375.0			
		計	417,014	222,736	194,278	46.6									
	不 良 債 務	344,988	293,768	51,220	14.8	計	488,215	288,966	199,249	40.8					

H24決算見込みは3月補正の数字である。